

2019年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2020年3月15日

発行人
日本基督教団 関東教区 埼玉地区委員会
委員長 小林 眞
さいたま市岩槻区本町 4-3-15
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

新年合同礼拝

熊谷教会 大坪 直史

埼玉地区は、各区合同の新年礼拝と三区合同の新年礼拝を交互に隔年開催していますが、今年は、三区合同の新年合同礼拝を二〇二〇年一月十三日(月・休)、井ノ川勝先生(中部教区石川地区の金沢教会牧師)を説教者にお迎えし、上尾合同教会を会場に行われました。



地区内外の五十四教会・伝道所(地区内は五十一教会・伝道所)から二五〇名の参加者がありました。

地区五十九教会・伝道所で三〇〇名規模の集会が可能な場所に限られますが、今回は、二〇一六年の埼玉地区全体の新年合同礼拝でもお世話になりました上尾合同教会が会場教会として、礼拝、聖餐、礼拝後の交わりの場までご準備くださいました。

礼拝司式は埼玉大通り教会の川添

義和先生がお務めくださいました。川添先生の歯切れの良い司式のもと、オルガンの前奏曲が流れ出しますと、礼拝堂は、にわかに厳かな雰囲気になりました。



私たちは、普段は各教会・伝道所において別々に礼拝をささげていますが、この日は一堂に会して共に



礼拝をささげ、ひとりの主を、ひとつの信仰をもって仰ぎ、ひとつの歌声をもって賛美する、豊かな礼拝の交わりに与ることができました。

ここに、埼玉地区の一致と連帯の土台があるということ強く覚えさせられたひと時でした。

子ども説教は東所沢教会の指方周平先生が担ってくださいました。

指方先生は、コリントの信徒への手紙Ⅰ十二章より、「キリストの体」と題して、教会の豊かさについてお話しくださいました。



大きな画用紙に描かれた人の顔の絵を掲げて、眉毛も目も鼻も口も皆、神の御心によって、その場所に配置されたものであり、他の部分が他の場所を担うことはできないとお話しくださいました。

同様に、私たち一人ひとりも皆、神の御心によって、御子の命に生かされて、この時代、この場所に置かれていたのであり、かけがえのない存在として、神の御用のために歩む者とされている、この幸いについてお話しくださいました。

たね

◆当教会「裏庭クラブ」の続報。裏庭クラブを親子で担って来ていた日一家が故郷に転居したのが二〇一六年春。二〇一九年春、家族が一人増えた日一家が連休を利用して当教会の礼拝に逆(一)里帰り。

◆G君、T君は、到着するなり庭いじり。何でも二人はこの「裏庭クラブ」を楽しみしてきてくれたとのこと。

◆お土産に頂いたのはうれしいニュース。当時、求道中だったパパがクリスマスに洗礼を受けたとのこと。曰く「故郷の教会の牧師先生の説教と、ここで聞き続けていた説教が同じこと(＝福音)が語られていることに気付いて、主イエスを信じる決心ができました」。背後にクリスマスチャンのママの粘り強い祈りと、何よりも主の力強い導きがあったことを思う。

◆心の畑が耕かされた後、「成長させてくださったのは神！」

(田中かおる)

子ども説教の後、子どもたちは退堂し、別室で地区教育委員会による特別プログラム



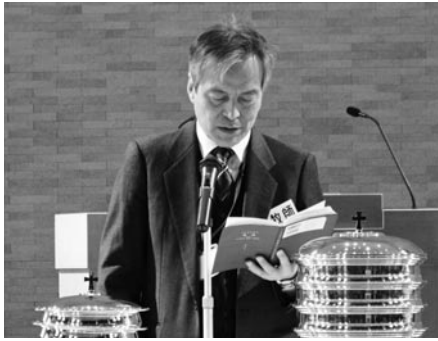
の時間を皆で楽しく過ごしました。

説教をお語りくださった井ノ川先生は、使徒言行録九章より、「キリストの道をまっすぐに、共に歩もう」と題してお話しくださいました。

井ノ川先生は、伊勢神宮が建つ町で、山田教会の牧師として、三十年間、伝道と牧会に従事された経験から、その町で礼拝をするのは、その町の救いのためでもあると、お話しくださいました。

また、最初のキリスト者たち、最初の教会が、「主の道に生きる者」と呼ばれていたという

ことを踏まえて、私たちキリスト者、私たち教会は、キリスト道(どう)に生きる者であるとお話しくださしました。そして、大根のお漬物が、季節を過ぎても、なお色々



に味付けられて、美味しく食べられるのと同じように、私たちキリスト者も、主の御用のために、くたくたになるまで使われて、なお主の道に生きる者、キリスト道に生きる者、キリストをまっすぐに伝える者として、歩ませていただきます。大根伝道者、大根キリスト者として歩ませていただきます。と語られ、そのことを願う祈りをもって、説教を締め括ってくださいました。

聖餐の司式は、武田真治牧師(上尾合同)、法元聖親牧師(深谷)が補助を務めてくださいました。

酒(液)を届けてくださいました。



私たちは共に主の聖餐に与かり、改めて主の御体なる教会に連なる者とされた喜びと感謝を覚え、主の十字架と復活による救いの福音を宣べ伝える使命、召命に生きる者とされているということを確認することができました。

配餐奉仕者たちは礼拝堂、小礼拝堂、玄関ロビー等々、教会の隅々にまで主の御体なるパンと主の御血潮なるぶどう

同礼拝以後に洗礼を受けられた方と信仰告白をされた方も祝福することと致しました。

そこで三名の受洗者の方が招かれて祝福の祈りがささげられました。



また、十二月に按手を受けられた二人の先生が紹介されました。



その後、会場をホールに移

し、交わりのひと時を持つことができました。上尾合同教会の皆さまが、おにぎりとお菓子をまとめた袋をお配りくださり、その場で召し上がることも、お持ち帰りいただくこともできました。

ホールでは栗原清副委員長(武蔵豊岡)が井ノ川先生にインタビュをする形で話を盛り上げてくださり、また、皆それぞれに久々の再会を喜んで、歓談の時を過ごしたりすることができました。

上尾合同教会の武田先生をはじめ、長老会と教会員の皆さま、各奉仕者の皆さまには、見える所、見えない所で、多くのご準備とご配慮をいただき、大変お世話になりました。感謝を申し上げます。

新しい年、地区内の諸教会・伝道所が共に主を礼拝し、兄弟姉妹や子どもたち、また求道者の方々との交わりをもって、新たな気持ちで歩み出すことができました。幸いを、主と皆さまに心から感謝しています。

皆さまの上に、新しい年の主の祝福と恵みをお祈り致します。(地区書記)

祝 授 按

✠ 正教師となつて

浦和別所教会 澤田石 秀晴



この度、主の恵みにより授手を受けることが出来ました。この授手を受けたことは、大きな喜びです。私にとつて准允を受けてから授手までの道のりは、とても長く感じられました。正教師試験のための勉強が思うように出来なかつたからです。一度は、心が挫けそうになることも体験しましたが、主の支えと教会員の祈りによって、その苦しさを乗り越えることが出来ました。

また、授手を受けたことは、大きな喜びであると共に、とても厳粛な思いに導かれていきます。この授手礼は、聖霊の注ぎ、神の賜物の授与を示す歴史を持つた儀式であり、この恵みを受けて、正教師としての新たな役割が与えられることだからです。これからは、厳粛な思いと責任の重さを感じながら、教会員の方々と共に、新たに伝道に踏み出したいと思っております。皆様の祈りに覚えて頂ければ幸いです。

✠ 神への希望を強めて

日野原記念上尾栄光教会

長橋 和彦



授手を受け緊張の日々です。

地区諸先生

方、兄弟姉妹諸先輩方に祈られ立たされた恵みを思い感謝致します。地区主題「主にある交わりを深めよう」に支えて頂き、地域教会の伝道と牧会に仕えてまいりたいと願っております。昨年は、創設以来献身的働きを続けられた中心役員が、闘病を経て天に凱旋されました。入院を重ねる中、必ず礼拝に出席し、役員会で出席も欠かされませんでした。最後まで教会と兄弟姉妹のため祈り続けられました。小さな群れにとっては、大きな痛みです。しかし、遺された信仰、証は教会を励まし、主を賛美するものでした。

✠ 授手を受けて

飯能教会 木村 光寿

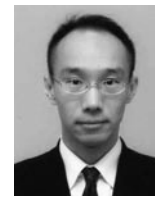


主に導かれ、また飯能教会の信徒の祈りに支えられて、正教師試験に合格し、授手を受けられましたことを心より感謝申し上げます。

主任担任教師としての務めと、また二人の娘の育児とで、試験の準備はとても大変でした。しかし、そのように苦しいときを過ごしましたが、この試験を通して、神学について多くを学ぶことが出来ました。そのように豊かな恵みを与えて下さいましたことを主に感謝いたします。

✠ 次の世代に伝えるために

深谷西島教会 塚本 望



深谷西島教会において担任教師として教会奉仕と自己研鑽の日々を送らせて頂いている間にも、招聘があれば、いつでも主任担任教師として赴任する心備えをして参りました。その意味において、教会形成に欠かすことのできない聖礼典の執行を許される正教師として授手を受けられた恵みは大きな感謝であります。特に次の世代に福音を宣べ伝えるべく、信仰の継承と教会員の弟子訓練に力を注ぎ、あとに続く方々が授手礼を受けられる時には共に授手の手を置くことが出来る恵みはこの上ない喜びであると感じております。

まだ具体的な教会からの招聘のお話は頂いておりませんが、主の時を待ち望みつつ、備えたいと思います。未熟者ではありますが、これからも更なる研鑽を重ねさせて頂き、この世での生を全うするその時まで、主の弟子としての使命を果たして参りたいと願っております。

集会報告

信教の自由と平和を
求める2・11集会

川口教会 本間 一秀

二月十一日(水・午前十時)、大宮教会を会場に沖繩本島、東村高江にて米国ヘリパット基地建設反対運動を続ける伊佐育子氏を講師に「高江からの警告―沖繩の痛みから希望へ」の講演を聞いた。

ヤンバル水鶏、イグチゲラ等の貴重な動物、植物等が生息する土地にヘリパット建設がされた。十分な説明も無かった為に「座り込み」の抗議行動が続けたが、強行に工事が進められ、騒音と低空飛行の恐怖、墜落の不安の中の生活を余儀なくされている。

周辺は沖繩本島の大切な水源地帯である。米軍の様々な廃棄物がダム等に捨てられ、水質汚染も危惧されている。このような現状に沖繩の人々は悩みつつ過ごしているとのこと。

沖繩の人々の痛みを覚えて「平和を求めて」叫び続けなければならぬと自戒する講演会であった。

(社会委員会委員長)

三区合同教師会報告

埼玉通り教会 川添 義和

一月二十七日(月)、十時三十分から講師に秋山徹先生(教団総監事)を迎え、浦和別所教会を会場に三区合同教師会を行いました。



開会礼拝は高田輝樹先生(草加)、聖書箇所はテモテの手紙I 四章十一節〜十六節。



高田先生は、「大きな会社があまりにも忙しいために、人を育てられない状況にある。大学も同様である。では、教会は人を育てているのか。牧師は、どんなことに注意を払ったらよいのか。信じる者たちの模範は、主イエスに従っていく喜び、神を礼拝する喜び、深いところから湧き出てくる喜びがあつて初めて信徒の模範とされる」と語られました。

「聖書・信仰告白・教会―牧会生活五十年を顧みて」と題して講演をうかがいました。

秋山先生は自身の生いたちから神学校入学までを話されました。牧師の家庭に育ち、由布院にて、家族が一丸となって伝道する中で、キリスト教以外の事は考えられず、神に召され献身する決意を与えられたとのことでした。

神学校時代は、由布院での信仰生活と改革長老派の伝統との違いに戸惑いながらも徐々に整えられ、外国語で注解書を読み、原典で聖書を読めるようになる事を秋山先生ご自身に課していたことを話されました。

次に先生は、金沢教会での歩みについて語りました。伝道師の歩みは充実していましたが、説教の準備に苦労され、み言葉をみ言葉として語ることに、何よりも聖霊に導かれて語る恵みを知らされたとのことでした。若松教会、蕃山町教会ではいのちの電話に関わり、伝道牧会をされ、蕃山町教会では教勢も上がり充実した歩みでしたが、ウエスタン神学大学に留学する決心をされました。

留学後、上尾合同教会に赴任し、当時、教会は、伝統の違う三つの教会が合同し、教会形成をしていました。教会は、改革長老教会の伝統にて教会が歩む事、会堂建築、幼稚園の奉仕、教会の礼拝式の改革にも取り組まれたことを語られました。



講演後、昼食を取り、埼玉地区の教師たちが各教会の報告をいたしました。

秋山先生の講演を伺い、とても充実した合同教師会でした。最後に、講師としてお招きした秋山徹総監事、奉仕を担ってくださり、合同教師会を覚えて祈ってくださった方々、会場を提供してくださりました澤田石先生、浦和別所教会の皆様にご心より感謝いたします。出席者は、三十六名(講師含む二十八教会、伝道所)でした。(教師委員会委員長)

特集

今・そして課題と展望

毛呂教会 澁谷 実季

毛呂教会に関する記録は一九九七年に発行された「日本キリスト教団毛呂教会五〇周年記念誌」に詳しく書かれています。内容は、戦後一九四七年

法人格を取得して以降の歴代教職全員の祝辞をはじめ、教会の過去の資料を様々な関係者・教会等を巡って収集・整理したものが載っています。

それによると、戦前は定住牧師がおらずメソヂスト教会の巡回伝道によって家の教会として集會が持たれており、戦後、藤波良也先生が赴任される以前は中央農村教化研究所(農村伝道神学校の前身)出身の教師が仕えてこられました。最



盛期には現住陪餐会員四十名を超える程に成長しましたが現在は二十名程です。

私は、当教会に仕えてようやく七年を過ぎたところですが、神様のご計画の中にあると感じたいくつかの出来事を紹介することで、地区内諸教会の皆様信仰生活の場である教会について考えるきっかけにして頂ければと思います。

一、赴任して数年はコンサートや講演会を積極的に企画し好評でしたが伝道は不振のままでした。

二、不振ゆえに牧会は御言葉中心であると改めて知り、講解説教に代えてから教会活動全体に安定感が出てきたこと。

三、わたしが辞任を考える程に苦しみ悩んだ頃、初めての定住牧師であった吉田傳治牧師の訃報を知らされ大塚平安教会での葬儀に参列し、ご遺族に記念誌を渡し謝意を伝えたと。

四、これを境に急速に教会の歴史と毛呂の町への理解が深まるに至ったこと。

さまざまなる出来事を通して私の働きに主の御手があることを信じ、主任である夫の澁谷弘祐牧師と共に励んでいるところです。

地区委員会報告

二〇一九年度第五回委員会

日時 十一月十九日(火)
会場 大宮教会
出席 十人
主な報告

●地区内の教会・教師の報告
◎辞任
・愛泉(主兼) 深井智朗(正)
・東松山(主) 野村忠規(正)
◎就任
・愛泉(主) 深井智朗(正)
・東松山(主) 崔 長壽(宣)
・聖学院(代) 東野尚志(正)
◎就任式執行予定
・東松山(主) 崔 長壽(宣)
◎隠退
・東松山(主) 野村忠規(正)

◎按手礼式執行予定
・木村光寿 飯能(主)
・澤田石秀晴 浦和別所(主)
・塚本望 深谷西島(担)
・長橋和彦
日野原記念上尾栄光(主)
無任所教師(埼玉地区移住)
・稲生勝也
◎建物取得 菖蒲教会
◎会計報告
九月三日〜十一月十八日分
以上、承認。

●主な協議事項
一、地区委員会主催集會等に関する件

①新年合同礼拝について

・日時・会場の確認、説教者や聖餐司式者、当日奉仕者等についての話し合いをした。

②地区総会について
・日時・会場の確認、説教者についての話し合いをした。

二、クリスマス・プレゼント(地区互助)について
・隠退教師に差し上げる(二十名、十万円)。

三、次年度教区総会に向けて設営委員会を設置する件
以上、可決承認。
●閉会祈祷 大熊眞弓

二〇一九年度第六回委員会
日時 一月十四日(火)
会場 埼玉新生教会
出席 八人
主な報告

●地区内の教会・教師の報告
◎就任式執行予定
・日野原記念上尾栄光(主) 長橋和彦(正)
・浦和別所教会(主) 澤田石秀晴(正)
・飯能教会 木村光寿(正)
●会計報告
十一月十九日〜一月十三日分
以上、承認。

●主な協議事項
一、新年合同礼拝(地区全体)開催の報告と反省、申し送りについて

二、五〇名(地区内五十一教会

会・伝道所、地区外三教会・伝道所)が出席した。
二、地区総会について
・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

三、諸申請について
・埼玉地区伝道支援金 上尾使徒教会 二万八千七百八十六円
久喜復活伝道所 五万円
深谷西島教会 四万六千九百円
七里教会 一万二千八百二十二円

●教区「教師謝儀互助」加須教会 九十三万円
秩父教会 八十万円
鳩山伝道所 六十四万円
●教団年金掛金互助 本庄教会 教会負担分 三万四千九百八十円
教師負担分 三万五千六百四十円

四、教団伝道支援金配分について次の通りに配分する。
桶川伝道所、鳩山伝道所、久喜復活伝道所等、合計二十五万円。
五、台風十九号等被災支援について
以上、可決承認。

●閉会祈祷 栗原初音

二〇一九年度第七回委員会

日時 二月十四日(金)
会場 大宮教会
出席 十一人
主な報告

●地区内の教会・教師の報告
◎建物取得取り下げ 菖蒲教会
●書記・補助書記報告
『地区通信』と『埼玉の夜明け』の合本印刷等についての話し合いは、三月十五日(日)十五時から岩槻教会にて行う。

●問安報告(台風一九号被災状況確認報告)
東松山教会員宅の被災状況を確認。埼玉地区よりお見舞金一万円を差し上げた。

●会計報告
一月十四日〜二月十三日分以上、承認。

●主な協議事項
一、地区総会について
・議員登録、総会奉仕者、議案(委員長報告・宣教計画・予算案)等について話し合った。

・事務準備会を三月十七日(火)午後一時より埼玉和光教会で行うことを確認した。

二、埼玉地区の災害対策要綱変更について
以上、可決。

三、次回地区委員会予定について

二〇二〇年度第一回地区委員会を二〇二〇年三月二十日(金・休)総会後に行うことを確認した。

●閉会祈祷・栗原 清
約六割となりました。

編集後記

この一年も多くの方々が原稿依頼を快諾してくださいましたことを感謝します。

今年、新年合同礼拝を三区合同でささげ、井ノ川勝先生を通してキリスト道に生きる大根伝道者、大根キリスト者としての歩みについてお勧めをいただきました。

今号は、按手を授けられた四人の先生方に、主の召しにお応えする深い思いを感謝と喜びを込めて寄稿していただき、また、教師委員会の三区合同教師会の報告をいただきました。「特集」は、毛呂教会の紹介を掲載しました。

年度末を迎え新型コロナウイルス感染症被害を拡大させないため、様々な企画が中止、延期、自粛となっています。感染されている方々の回復を祈ります。

受難節を迎えている日々、主イエス・キリストの御苦しみの故を自問し、祈りつつありたいと思います。(茨木公子)

婦人部だより

No.38

今年度の活動を振り返って

婦人部委員長 石井 わか

二〇一九年度、新しく委員を引き継ぎ、早や一年が過ぎようとしています。

四月十五日(月)、大宮教会で総会を開催し、この時点での地区婦人部への登録教会・伝道所は四十七、八百七十七人の会員です。活動計画を承認して頂き、何もわからない私達新役員五人ですが、皆様のお祈りと共に前役員の方々と地区委員の栗原初音姉(浦和別所)に定例委員会に陪席して頂き、ご指導のもと一つ一つの行事を何とか行う事ができました。心から感謝いたします。

六月一日(土)～三日(月)にはアジア学院生のホームステイプログラムに三教会の会員宅で四人の学生さんを受け入れて頂きました。又、六月七日(金)～八日(土)には「全国教会婦人会連合五十周年全国集会」が幕張メッセ国際会議場で開催され、埼玉地区からも多くの方が参加いたしました。

七月一日(月)には「埼玉地区婦人部全体研修会」を大宮教会を会場に開催。講師に敬和学園大学准教授・宗教部長の下田尾治郎先生をお迎えし、生ける聖霊の働きを信じて、とのテーマで講演して頂きました。

三十九教会・伝道所、百九名の会員参加で恵まれた研修の時を持ちました。十月から十一月にかけては、地区内七ブロックに分かれての「もより婦人研修会」が開催されました。十一月二日(金)にはアジア教会婦人会議日本委員会(ACC WCJ) 一日研修会(超教派)が富士見町教会で開かれ、埼玉地区からも十二教会・四十三人が参加いたしました。

クリスマス時期には例年通り九教会・伝道所。五施設と「アジア学院」にじのいえ信愛荘に献金をお捧げする事ができました。年度最後の行事はNCC(日本キリスト教協議会女性委員会)主催の「世界祈禱日」(三月六日/金)に参加。一区は浦

和別所教会、二区は所沢武蔵野教会、三区はカトリック熊谷教会を会場にして、ジンバブエの教会女性によって作成された式文をもとにジンバブエを憶えて祈りの時を持ちました。

これらの行事を実行するにあたり毎月委員会を開いていますが、主の導きとお守り、そして何よりも皆様のお祈りとご協力によって支えられてこそ無事に行う事ができるという事を、この年度末にはこの他感じております。

昨年度、婦人部活動に対するアンケートが実施されましたが、そこからは様々な課題が見えてきます。高齢化による会員の減少、委員選出や研修会参加の困難さ、婦人部としての組織の消滅等、これらの事を考慮しつつ活動に取り組んできたつもりですが、何かを急に変える事は中々難しいものです。しかしながら少しずつでも時代を見据えた活動を模索していく必要を感じています。

二〇二〇年度は二年目となる私達ですが、ワンチームの意気込みで協力し、どうする事が御旨にかなうのかを絶えず祈りつつ歩んで行きたいと思えます。どうぞご加禱、ご協力を宜しく願います。

献金先報告と次年度の活動計画を記載いたします。総会や全体研修会、秋のもより婦人研修会には、是非とも大勢の参加をお待ちしております。

* * *

☆二〇一九年度クリスマス献金先報告

(九教会・伝道所)

・朝霞教会・加須教会・菖蒲教会・秩父教会・深谷西島教会・埼玉中国語伝道所・鳩山伝道所・桶川伝道所・久喜復活伝道所。

(七施設・学院)

・にじのいえ信愛荘・アジア学院・久美愛園・神愛ホーム・光の子どもの家・ホザナ園・三愛学園。

☆二〇二〇年度活動計画

◎地区婦人部総会

・四月十三日(月)十時～十二時

・会場 大宮教会

◎関東教会教会婦人会連合

第四十六回総会・修養会

・六月十一日(木)～十二日(金)

・会場 群馬県伊香保温泉

◎アジア学院生ホームステイ

プログラム

・六月六日(土)～八日(月)

◎地区婦人部全体研修会

・七月六日(月)十時～

最後に今年度のクリスマス

十四時三十分
・会場 大宮教会

◎「女性教職と牧師婦人の会」に協力。(十月)

◎アジア教会婦人会議日本委員会一日研修会(超教派)
・十月三十日(金)

・会場 富士見町教会

◎もより婦人研修会
(十月～十一月)

第一ブロック 埼玉大通り教会
第二ブロック 七里教会
第三ブロック 東京聖書学校
吉川教会

第四ブロック 桶川伝道所
第五ブロック 飯能教会
第六ブロック 川越教会
三芳教会

第七ブロック 深谷西島教会
◎「婦人部だより」発行(三月)

◎クリスマス献金先の検討
◎NCC主催「世界祈禱日」(超教派)に協力

二〇二一年三月五日(金)
式文Ⅱヴァヌアツ共和国
一区・会場 (岩槻教会)
二区・会場 (川越教会)
三区・会場 (カトリック熊谷教会)

事務担当 (安行教会)
事務担当 (川越教会)
事務担当 (カトリック熊谷教会)

事務担当 (深谷西島教会)
ご協力のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

お願ひ致します。

(安行教会)

もより婦人会研修会

十 第一ブロック

久美愛教会 田島 悦子

十月十九日(土)、前日の台風十九号は、多くの爪痕を残しました。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。雨も小降りになり、五教会二十九名をお迎えしました。

開会礼拝は。当教会の鈴木佳子牧師より「使徒言行録のパウロの伝道旅行は思うようにいかなかった。人の意志の計画ではなく、導かれる方に服従する姿勢」と語られました。

礼拝後は、ソワーズの宗田光悦、宇多子夫妻(武蔵豊岡教会員)のピアノ伴奏と賛美指導で、軽やかな曲に合わせて身体を動かし踊りました。沢山の恵みに預かり感謝です。

その後、軽食の持ち出し山のお交わりが出来たことに感謝します。

十 第二ブロック

聖学院教会 猪瀬 寛子

十月七日(月)五教会(一教会欠席)三十六名の参加でした。

当教会の東野ひかり牧師より使徒言行録六章一節〜七節

「食事の世話をする人 最初の執事・奉仕者たち」と題して私達は年をとつてもどのよな状況になつても、神さまが証しできる人としてくださると希望に満ちた説教を聞きました。

その後、緑聖ホールにて、笑いと共に身体(顔も)を動かしたり、御言葉をわかちあい賛美をしたり、主にある豊かな交わりの時を過ごすことができました。

十 第三ブロック

聖霊に導かれて

草加教会 稲垣 知子

十一月十四日(木)草加教会で第三ブロックもより婦人研修会が開催されました。

礼拝説教「あなたを救い出し彼らに遣わす」、講演「聖霊に導かれ神の召しに応えた人たち」と題して当教会の高田輝樹牧師より御言葉をいただきました。参加教会は六教会一伝道所、三十九名の出席です。

礼拝、講演後、五グループに分かれて、各教会の働き交わりをお互いに話し合いました。高田牧師は普段は教団事務局で働いており、宣教についてのお話しを力強くして下さいました。当教会は、ひかり幼稚園の礼拝堂で礼拝しています。

十 第四ブロック

使徒の信仰に学びつつ

上尾使徒教会 山崎 宏子

十一月九日(土)、わたしたちは、上尾合同教会牧師の武田真治先生をお迎えし講演をしていただきました。先生の広島での経験から高齢化の現状、教会のあり方、礼拝出席者の減少する中で、地域が合同で支えていくのは、困難である。維持出来ないのに教会は支えられるだろうか。若い人達を待っていても教会は支えられない。

広島では定年退職した男性に新しい人生を作り夢を持つてもらおうと、次の世代に信仰を残す時が目の前に来ている。私達が心新たにし、どう生きるかを神の生き方を中心に現実と向き合い行動してゆくように。教会のあり方を示され、次の世代に信仰を継いでゆくようにと力づけられました。

参加は、八教会三十六名

十 第五ブロック

聖霊に導かれて

ハレルヤコンサート

武蔵豊岡教会 中松聖美

八年ぶりに当教会を会場に十一月十三日(水)、三教会二十八名の姉妹と共に、もより婦人研修会を開催した。

礼拝は使徒言行録二章三十

六〜四十二節「だれにでも与えられていくもの」と題して当教会の栗原清牧師のメッセージに耳を傾けた。

教会紹介後、婦人の有志によるゴスペルフラ(君は愛されるため生まれた)を会場の方々と一緒に踊り、神様を賛美した。コンサートはソワーズ(倉橋宇多子姉&宗田光悦兄)の素晴らしい歌声とピアノの響きに皆感動し、私達も手を叩き声高らかに唱和し安らぎを得た。

昼食は手作りです、とても美味しいと笑みがこぼれた。地区婦人部の皆さまに感謝!!

十 第六ブロック

聖霊に導かれ、神の召しに応える 使徒言行録を学びつつ

志木教会 抜井 教子

十月七日(月)、志木教会を会場として八教会四十八人の参加でした。

開会礼拝は主題に沿って横山基生牧師より「サウロを捜すバルナバ」と題して使徒言行録十一章から説教して頂きました。迫害を受けた事によってバルナバとサウロは異邦人にも宣教して行った。

講演は、横山好江伝道師より「聖霊の賜物」と題していただきました。

昼食後は、各々に配られた質

問を先生の指導に従って合計すると自覚していなかった自分自身の賜物に気づき、これからの信仰生活に生かしていただける恵みに預かることが出来ました。

十 第七ブロック

福音に生きる恵み

深谷教会 岡崎 耀子

七ブロックもより婦人研修会を十月七日(月)当教会を会場に開催、五教会四十五名出席されました。開会礼拝は、保母光彦牧師より「信仰の従順」と題して祈ること、主の御言葉に聴き従うこと、生活の中で御言葉を行う人々に：福音に生きる恵みについて語られました。続いて法元牧師による「異言と預言」について学びました。聖書の御言葉を理解し、わかりやすく語ることが出来るように、預言の賜物を熱心に祈り求め、主の召しに応える者でありたいです。

ティータイムのひとときも良い交流の場となりました。



アジア学院学生のホーム ステイプログラムについて

四十七年前、アジア学院が町田市の鶴川から栃木県那須塩原に移った時、以前から関わりがあった全国教会婦人会連合の小委員会(世界教会運動委員会)が、教会婦人の働きとして、はじめて来日したアジア、アフリカからの約三十人の学生のために、日本の家庭を通して日本の習慣、文化に触れ、礼拝に出席する機会を持つことの提案をしたのが、このプログラムの始まりでした。以来四十年余りのこの企画は、日本が初めてこの学生にとって約九ヶ月のアジア学院での研修期間の中で、日本を身近に知る機会となつていくとの事。今では、この企画が、アジア学院のキャリアラムの最初の部分(六月第一土月)に加えられています。

ホストファミリーは、東京教区(五支区)、埼玉地区、西東京教区、神奈川教区の教会婦人の協力を得て継続されています。二〇一九年は、埼玉地区では三家庭で四人の学生を迎えてくださいました。

十二月十四日、学生たちは、修了式を迎え、良い成果をもつ

て家族の待つ母国に夫々元気に帰国の途につかれました。

(地区通信委員会註)

ホストファミリーの報告

♥アジア学院生を迎えて

所沢みくに教会 高崎 和子

今年、アレックス・オウス牧師(ガーナ)とジエレミヤ・ナルザリーさん(インド)の二人を迎えました。



今回二人と一緒に街を歩いているときに、すれ違いざまに避けられたり。乳母車を押す母親に嫌な顔をされ、よけられたりしました。今までに無いことでした。肌の色で差別的な目で

見られたのは、初めてでした。教会の子どもたちは、色々な国の方々とお会いしているのでも、毎年楽しみにしています。幼い時から言葉も違い、肌の色も違うことを気にもせず、親しく交わることができるとは、子どもたちの成長過程において大切なことであり、学院生との出会いがもたらす力は、大変大きなものがあると思っております。この機会を感謝しています。

♥楽しかったホームステイ

飯能教会 菰田 愼恵

今回、ガーナのフランシス・アルハッサンを迎え、二回目のホストファミリーの経験です。一回目は、一九八七年でした。



今回西早稲田のキリスト教会館での初対面の時は、ぎこちない挨拶でしたが、電車を乗り継いで我が家に着く頃には、笑みがこぼれるようになりました。会話は、ほとんど夫に任せ、私はアイコンタクトと手話のようなことでしたが、台所に立つて見本を示すと、とても嬉しそうに、上手に野菜や肉を切って手伝ってくれました。ちょっと難しい切り方も喜んで真似をして楽しんでくれました。

ゆつくり出かける時間はなく、入間市は狭山茶の産地なので、広大な茶畑と自衛隊の入間基地に案内しました。もう一日あれば、もつとたのしめたかなと、懐かしく振り返っています。

♥アジア学院生を迎えて

浦和東教会 井上 儀子

今回初めてホストファミリーを引き受け、インドネシアからのハユ・プトゥリ・アスターリさんをお迎えしました。この企画は、日本の家庭で家族と共に過ごすプログラムであるをよく考えもせず、お引き受けしたことに、最初は後悔しました。

何故なら、わたしは一人暮らしで、わたしの家におくられた方は、気の毒であるうと思つたからです。

でも、西早稲田のキリスト教会館で紹介されお会いして、自宅に到着するまでに、すっかり打ち解けて、まるで母娘のように、いや祖母と孫娘のように彼女は接して下さいました。

台所でのお料理も片付けもよく手伝ってくれ、どちらが招いたのかわからなくなるほどでした。おかげで、楽しい夕食の時を過ごすことができました。



彼女は、イスラム教徒でしたが、教会でも皆が、笑顔で迎えてくださり、彼女は大喜びでした。礼拝後は、教会員数名の方々が昼食を共にしてくださり、助けて下さいました。良い時を与えられ感謝しています。